

厚生労働科学研究費補助金 肝炎等克服緊急対策研究事業

「肝炎ウイルス検査受検から受診、受療に至る肝炎対策の効果検証と拡充に関する研究」

平成 29 年度 分担研究報告書

「肝炎医療コーディネーターの活動状況に関するアンケート調査と課題について」

分担研究者：本田浩一 大分大学医学部消化器内科 講師

研究要旨 大分県では、肝炎医療コーディネーターを養成後、育成セミナーを定期的に施行してきた。今回、これまでにコーディネーターに対して施行したアンケート調査を分析し、問題点や課題について検討した。最近 5 回のセミナーにおける平均参加者は 20 名であり、その多くはセミナー受講回数が 5 回以上であり、参加者の固定化が認められた。困っている内容としては、活動の機会がない、知識不足、コーディネーターの認知度が低い、活動のツールがないなどの回答が多かった。コーディネーターの活動を活性化するため、拠点病院が積極的に関わっていく必要があると考えられた。

A. 研究目的

近年、ウイルス肝炎治療の著しい進歩により、多くの患者が治癒するようになった。そのため、検診を受け、医療機関を受診し、治療まで持込むといった連携を円滑に進める必要がある。大分県では、肝炎医療コーディネーターを養成後、育成セミナーを定期的に施行してきた。これらの取り組みにもかかわらず育成は十分ではなく、活動にも今一つ戸惑いが認められる。そこで、コーディネーターに対してこれまで施行したアンケート調査を分析し、問題点や課題について検討した。

B. 研究方法

2011 年度に 177 名の肝炎医療コーディネーターを養成し、2017 年までに計 15 回の育

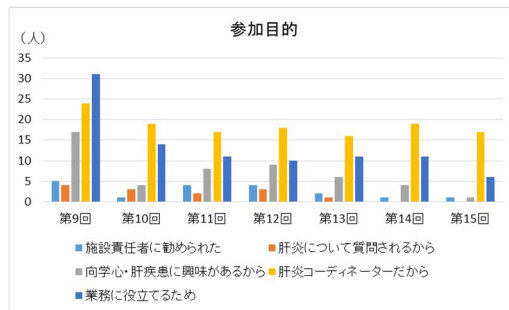
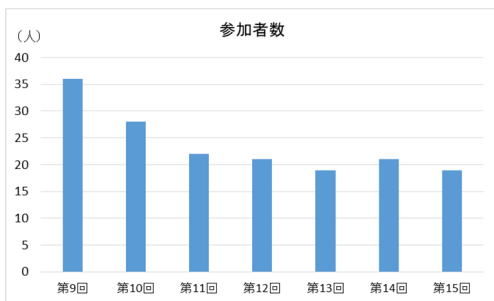
成セミナーを施行した。今回は 2015 年～2017 年(第 9 回～第 15 回セミナー)にセミナー受講者に対し施行したアンケート調査について分析し、コーディネーターの活動に関する問題点について検討した。

・調査項目[第 9 回～15 回；受講者数、職業、セミナー参加回数、勤務先の地域、参加目的、無料検診・医療費助成・肝疾患・最新治療に関する相談数、専門医への紹介件数、受検・受診・受療勧奨数、今後受けたいセミナー、第 9 回のみ；困っている内容]

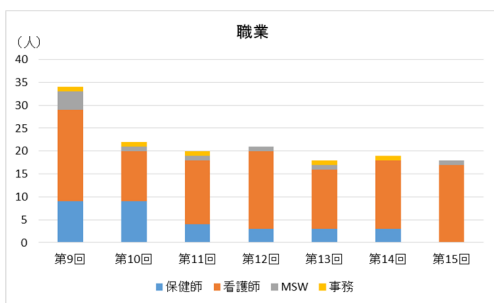
C. 研究結果

1. 参加者について

セミナー参加者は徐々に減少してきており、最近 5 回の平均参加者は 20 名であった。参加者の多くは看護師であり、次いで保健師であった。

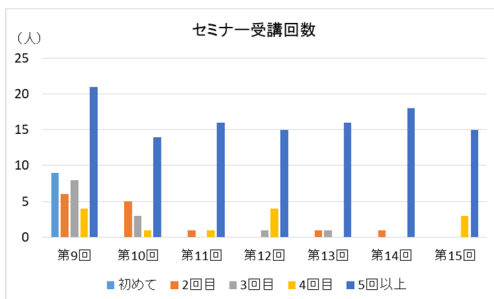


無料検査、医療費助成、肝疾患、最新治療に関する相談件数、専門医への紹介、受検・受診・受療勧奨件数を下に示すが、何らかの相談を受け、専門医への紹介、受検・受診・受療勧奨を行っているコーディネーターが多く、受検・受診・受療を進める上でコーディネーター活動の活性化は有用であると考えられた。

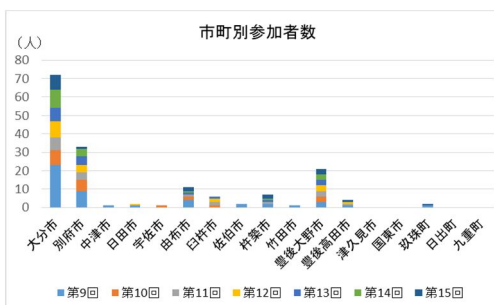


2. アンケート調査結果

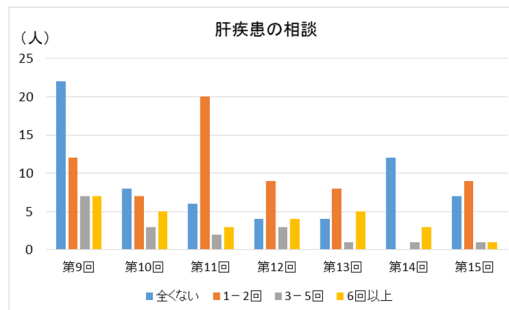
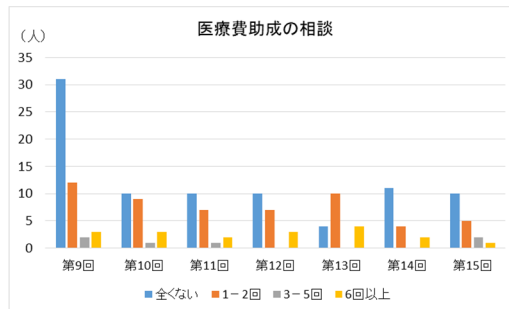
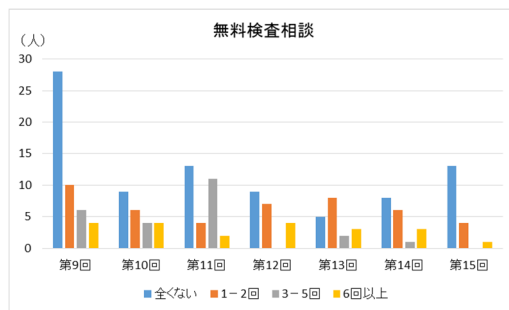
多くの受講者のセミナー受講回数は5回以上であり、参加者の固定化が認められた。

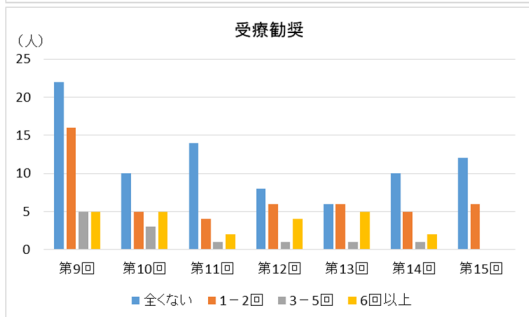
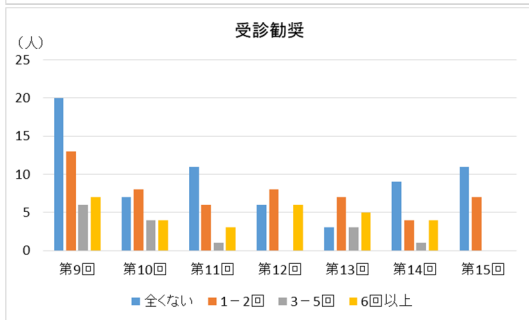
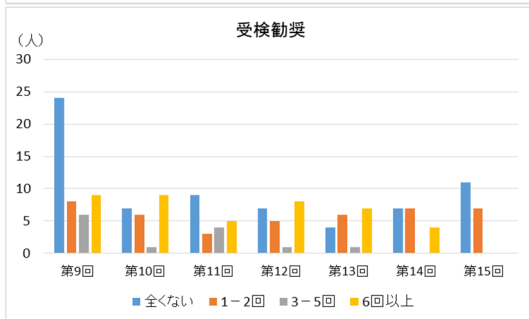
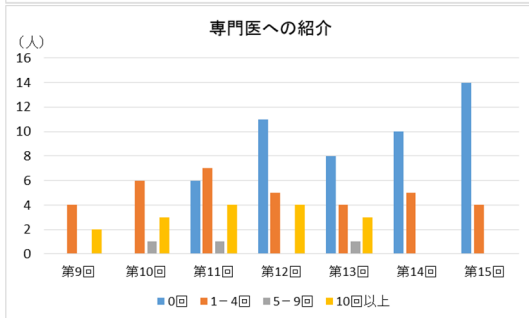
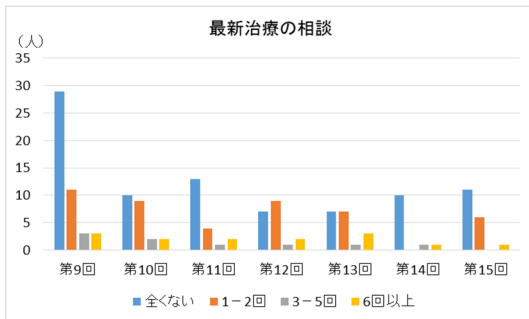


セミナー参加者数に地域差が認められ、17市町のうち8市町では最近5回のセミナーに1人も参加者がいなかった。



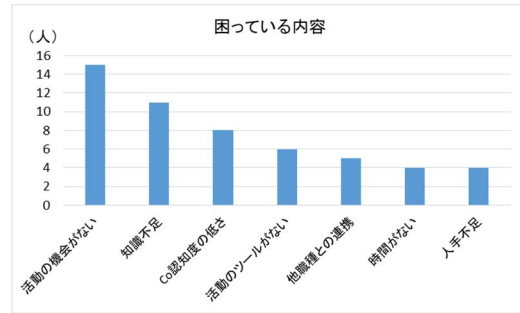
参加目的は肝炎コーディネーターであるため、業務に役立てるためという回答が多かった。





困っている内容としては、活動の機会がない、知識不足、コーディネーターの認知度

が低い、活動のツールがないなどの回答が多かった。(第9回養成セミナーで調査、参加者数36名、回答者数32名、複数回答あり)



D. 考察

継続的に活動しているコーディネーターの減少やセミナー参加者の固定化が認められた。コーディネーターの大多数は看護師であり、配置換えなどにより、活動を行っていないコーディネーターが増加したのが、その理由の一つと考えられる。2018年1月に新たに肝炎医療コーディネーターを育成したが、コーディネーターの活動に関して、拠点病院が積極的に関わっていく必要があると考えられた。

E. 結論

受検・受診・受療を進めていくにあたり、肝炎医療コーディネーター活動の活性化が必要と考えられた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得なし
2. 実用新案登録なし
3. その他特になし

